

【令和2年度】四国大学職業実践力育成プログラムに係る自己点検・評価表

【実践的小学校英語指導者育成プログラム】

評価項目	プログラム実施組織による自己点検・評価	自己点検・評価に基づくBP推進会議の評価
1. 教育課程(プログラム実施状況、カリキュラムの妥当性)	当プログラムは新学習指導要領に対応し、小学校で英語を指導するために必要な知識やスキルを習得するための実践的で充実したカリキュラムである。また選択科目も「英語文学」や「異文化理解」等中学校教諭二種免許の取得に必要な科目区分が配置されており、受講生のニーズに合わせた選択が可能になっている。	教育課程は、教育目的の実現のために適切な授業科目が設定され、受講生のニーズに対しても十分な配慮がされるなど、適正に運営されていると判断できる。
2. 教育成果(各科目の成績評価、人材育成効果(身に付ける能力を修得したか))	受講生は、平日の昼間は勤務校での本務を務めつつ、夜間及び休日に受講するというハードなスケジュールをこなしながら、予習や復習も怠らず大変熱心に取り組んだ結果、英語指導者として必要な知識や技能を身に付けている。	対象とする職業に必要な能力や知識の向上に資するプログラムとなっており、十分な教育成果があると判断できる。
3. 学生支援(学修支援体制・学修支援状況)	担当教員は、受講生の負担や不利益にならないよう、授業時間や日時において適宜調整を行っている。新型コロナウイルス感染症への対策として、ほとんどの授業をオンラインに切り替え、課題等はマナバコースを活用することで、受講生の移動の負担と不安を軽減できた。初回授業日には、事務局も待機し、学生支援体制を整えた。また、授業に対するオリエンテーションやZoom及びマナバコースの説明など、個人支援を行った。	学修支援体制については、事務局と研究科の連携のもと、遠隔授業及びポータル等によりコロナ禍における対応が図られ、社会人学生の支援が適切に行われていると判断できる。引き続き、充実に努められたい。
4. 組織運営(教育組織の適切性・妥当性など)	教育組織は、実務経験や教職経験の豊富な教員をそろえ、適切に機能している。プログラムの運営などについては、毎月開催される学科会議で、共有されるべき情報は常に教員間で把握しており、適切性や妥当性についての検証組織は整っている。しかし、受講生や教員の負担などについては今後の検討課題であると思われる。	適切に教員が配置されるなど、組織運営は適正に運営されていると判断できる。勤務体制については、対面と遠隔を組み合わせた授業を行うなど、教員の負担軽減が図られるよう組織的な観点から今後工夫・改善に努められたい。
5. 施設設備(施設及び設備の整備状況)	新型コロナウイルス感染症対策により、ほとんどの科目がオンライン授業(Zoom)になったために、受講生のネット環境が時々問題となった。	施設設備の整備状況については、概ね良好だと判断できる。今後、受講生のネット環境にも配慮した効率的なプログラム運営のための工夫に努められたい。
6. 広報活動(受講生の募集・広報活動)	小学校へのパンフレットの送付の他、学校別、または教育委員会関係の研修会で直接配布している。大学のHPでも発信しているが、現受講生に職場での呼びかけなどをお願いしている。オンライン(Zoom)対応による受講生増加も期待される。	今後、定員充足のため、受講生の募集・広報活動をWEB上でのパンフレットや授業中の動画閲覧、参加申し込みを可能にするなど、さらに充実させるよう努められたい。
7. 内部質保証(内部質保証システムは有効に機能しているか)	受講生アンケートを実施し、受講生の率直な意見を聞き、学科教員で適宜話し合うようにしている。適正な内部質保証体制は整っていると思われる。	学生の意見を取り入れる仕組みを構築し、適正な内部質保証体制が構築され、機能していると判断できる。